



よしだ 議会だより



北区祭典 目の出組屋台出発

第91号

吉田町議会

〒421-0395
静岡県榛原郡吉田町住吉87
TEL: 0548-33-2141
平成30年11月発行
責任者 議長 藤田和寿

平成30年第3回定例会

2P

平成30年第1回臨時会

7P

一般質問 4人が町政を問う

8P

委員会報告

12P

町のボランティア団体紹介

15P

特別会計、企業会計決算を で 認 定

平成29年度一般会計決算

歳入総額： **118億4,223万円**

(前年度 108億8,187万円)

歳出総額： **112億2,718万円**

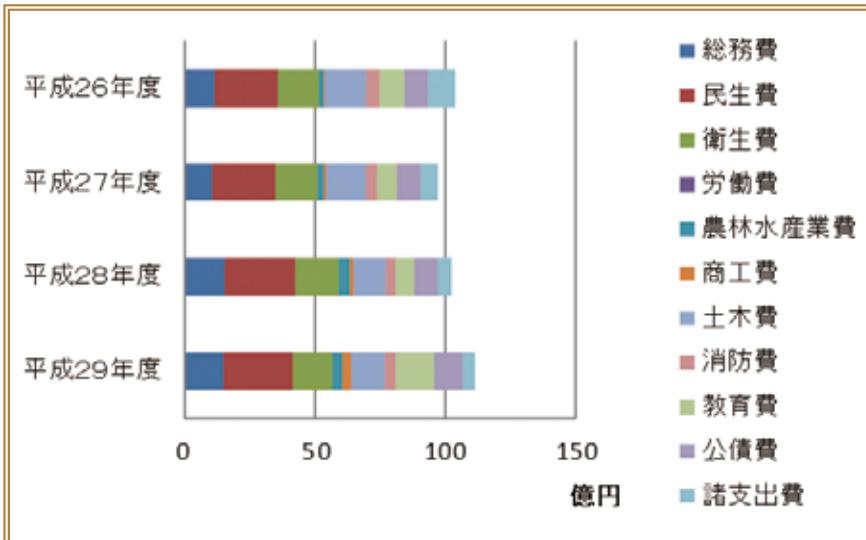
(前年度 103億5,813万円)

歳入歳出差引総額： **6億1,505万円**

(前年度 5億2,373万円)

第3回定例会を9月3日から25日までの会
期で開催し、29年度一般会計、特別会計、企
業会計の決算認定7件、補正予算5件、条例
の一部改正6件、人事案件1件の計19件を審
議し、全会一致で可決、認定、同意した。

歳出決算の変遷



歳入

問 町民税は増加し
たが、どのように
分析しているか。

答 給与所得者は昨
年より26人増加し
た。年収200万から
300万の間で増加し

ている。
また、農業所得者
は17人増え、43人
になった。

問 固定資産税につ
いて当初予算より
1億5350万増
額である。増えた

一般会計決算質疑

要因は。

答 土地については、
沿岸部の地価の下
落が引き続いてい
る。内陸部は上昇
しているが、町全
体としては下落の
傾向である。
家屋については商
業施設が開設し、
住宅はわずかだが
伸びている。中小
企業については合
理化・省力化によ
る設備投資が進ん
でいるものと考え
られる。

問 地価について
は、まだ底値では
ないとの見通しか。

答 30年度において
も下落している
が、幅は少なく
なった。津波防災
まちづくりを進
め、防潮堤完成が
期待できるものと
考えている。

全会一致

平成29年度の主な事業



小・中学校空調設備設置工事費

2億2,734万円



総合体育館耐震補強改修工事費

5億1,256万円

・ふるさと納税返礼代	3億0,874万円
・企業活動維持支援事業区域基盤整備事業費	1億0,690万円
・同報無線デジタル化工事費	3,500万円
・若年者住宅取得応援補助金	2,340万円
・バス交通活性化対策事業費補助金	1,247万円
・不妊治療費	1,243万円

歳出

【総務費】

問 時間外勤務手当について昨年よりは減っているが、残業の減らない理由は。

答 28年度に比べ、一人当たり月2時間減り、努力している。緊急性のある業務については、必要な残業と考えている。

問 庁舎北側の駐車場をバス利用者の送迎車の混雑解消に開放できないか。

答 庁舎内での会議など、人が多く来るときの臨時駐車場として使用している。

問 庁舎西側の駐車場に来庁者以外の方が駐車しているが、町の対応は。

答 担当課が、駐車してあれば張り紙をし、注意を促している。

ている。

問 町づくり公社の負担金が増えたが、人件費が多いと聞いた。収益を得ることは可能だと思いが、公社への負担金のあり方は。

答 設立して2年だが、自立に向けた取り組みを行っている。公社を育てる意味でも軌道に乗るまで町としても責任を持っていきたい。負担金については事業内容を精査しながら額を決めている。

問 町づくり公社の活動が見えてこないが、事業について議会への報告の考えは。

答 一般社団法人であるため、議会にどのように活動内容の報告をするか、検討していきたい。

【民生費】

問 臨時福祉給付金

について、470人、11%が給付を受けられなかった。未給付者の対策は。

答 テレビ・ラジオの放送、ポスター・パンフレットを作成し自治会へ出向くなどをした。ワンストップ相談窓口でも行っていく。

臨時福祉給付金とは
消費税率の引き上げによる影響を緩和するため、所得の少ない方に対して、制度的な対応を行うまでの間の暫定的・臨時的な措置。

問 放課後児童クラブ

利用料について、現金扱いから徴収方法が変わった。滞納・未納対策は。

答 これまでは滞納はなかった。納付書と口座振替にした。

保護者が連絡の

取れる範囲にいるので、早めの対策を行っていく。

【衛生費】

問 ウオーキングイベントを町づくり

公社へ委託した理由は。

答 若い層の参加者が少ないとの評価を受け、働き盛りの年代をターゲットにするため町づくり公社に委託した。

【農林水産費】

問 耕作放棄地について農業委員会

でどうした対策をしているのか。活動内容は。

答 現地に行き、耕作状況を確認する、農地利用状況調査を行っている。農業委員・農地利用再生化推進委員・認定農業者に現地を見ていただく、耕作の依頼などをする。各地域に委員がおり農地のパトロールも実施している。

【商工費】

問 消費生活相談件

数が年々減少している。相談員が不在であるが、対応は。

答 架空請求の相談が多いが、職員で対応できた。県の相談員に協力をもらっていた。中部県民生活センターや無料法律相談を紹介した。

【土木費】

問 浜田土地区画整

理組合は事務が1人であるが、事業を行うために総合支援が必要では。

答 29年度は2人いたが、事務全般は1人でできている。工事の発注などは専門的な技術が必要であるが、町で工事の支援を今まで以上に行っていく。

【消防費】

問 災害用ワイファ

イルーターの使用目的は。

答 県内各市町やガイドラインなどの業者も含めてふじのくに防災情報協議ネットワークというシステムを使い、災害時に情報を共有している。有線が遮断した場合、ワイファイルーターを使用する。外に持ち出すのではなく役場本部で使う。



移動式AED

【教育費】

問 移動式のAED

を増やし、外でのイベント時に貸し出す考えは。

答 貸し出しは利用者から必要であれば行っている。町主催の大会については中央公民館にあるAEDを持ち出して対応している。体育協会主催の大会においても貸し出して緊急時に備えたい。

平成29年度特別会計・企業会計決算状況（万円）

事業会計名	歳入	歳出	差引残額
土地取得	42	42	0
国民健康保険事業	345,576	326,585	18,991
後期高齢者医療事業	24,472	24,408	63
介護保険事業	196,917	194,478	2,438
公共下水道事業	114,644	112,185	2,459

国民健康保険事業
特別会計決算質疑

問 基金残高は、2億8726万円（1人当たり4万4000円）積み立てられているが、
答 保険給付金に不足が起らないよう積み立てを行なった。

問 特定健診受診率が低い。日曜開催も含め、今後考えていることは。
答 日曜健診を12月に一回、二次審査を対象に行なった。13人であった。今年度も12月に行う。通知をしてPRする。

水道事業決算（万円）

	収入	支出
収益的収入及び支出	61,400	50,090
資本的収入及び支出	9,102	37,172

資本的収入額が資本的支出額に不足する額28,069万円は、減債積立金1,000万円、建設改良積立金6,500万円、過年度分消費税資本的収支調整額1,384万円、過年度分損益勘定留保資金7,655万円、当年度分損益勘定留保資金11,529万円で補填。



特定健診などの案内パンフレット

介護保険事業
特別会計決算質疑

問 地域包括支援センター運営事業は社会福祉協議会に委託している。決算が昨年度とほぼ同額であるが、実情は。
答 事業対象者が多くなることを予想し、職員の増員で予算をとった。ケアプランの報酬は支払基金から入る。予定より多くケアプランを立てたことから収入も増額となった。

公共下水道事業
特別会計決算質疑

問 公共下水道事業を行う中で、29年度の事業をどう評価をしているか。
答 29年度は総事業に対して受益者一世帯当たりの単価が下がった。工事区域が住宅密集地であったことが要因である。



町営さくら団地

条例の一部改正

吉田町営住宅管理条例の一部を改正する条例の制定

問 10月1日での申告で家賃額が決まるが、病気や事故などで働けなくなったときは。
答 収入が著しく下がった人には条例の中で減免、徴収猶予の規定があるため、措置はできる。

人事案件

吉田町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて

- 吉田町片岡
- 2415番地の2
- 河口 忠男 氏

平成30年度一般会計補正予算（第1号）

歳入歳出総額 3億1,277万円を補正し、
予算総額 109億4,977万円となる。

一般会計補正予算（第1号）

主たる歳入増減 (万円)		主たる歳出増減 (万円)	
地方交付税	1,128	農林水産費	605
繰入金	1,586	消防費	1,138
繰越金	4億0,730	教育費	1,430
県支出金	△583	諸支出金	3億4,829
町債	△1億1,523	総務費	△4,354
		商工費	△480
		土木費	△1,149

各特別会計補正予算（第1号）

特別会計	30年度当初予算(万円)	増減額 (万円)	総額 (万円)
国民健康保険事業	28億0,097	1億7,991	29億8,088
後期高齢者医療事業	2億6,571	63	2億6,634
介護保険事業	19億1,589	3,973	19億5,562
公共下水道事業	12億0,181	△85	12億0,096

すいなく、
る。時
にき
てい
る。

国民健康保険事業 特別会計

いいもげしそ基いい
く。てしをの金っ
。展く行施のた
開は行策後た
を補、のっ
図正翌練か
っに年りり
てお度上と

補正予算での主な質疑
一般会計
問
繰越金を基金費
に積み立てるの
は、子育て施
策の拡充や異
象に対応するた
の防災などに使
ないか。
答
自治体の予算は、
総計予算主義で
り、補正予算で
たな事業を行う
とは考えていな
い。また、繰越
基金に積み増し
その後に積み増
した施策の練り
し、行策の練り
げ、行策の練り
も、行策の練り
い、行策の練り

吉田町ICT-BCP（地震対策編）8月1日施行

「目的」

大規模な災害が発生した際に、復旧を優先するべき重要業務およびインフラを特定し、被害軽減のための予防措置および復旧に向けた職員の行動手順を定めることを目的として、町のICT分野における業務継続計画を策定する。

「重要度別システム一覧」

- A 早急な復旧が求められるもの
災害発生直後から必要となる業務に必要なシステム。
復旧優先度が最も高く復旧目標時間は3時間以内。
- B 早期の復旧が求められるもの
被害調査や、緊急性のある災害対策等に必要なシステム。
復旧目標時間は24時間以内。
- C 行政機能回復を目指して復旧するもの
災害発生時に応急業務に必要な町内の内部業務に係るシステム。
復旧目標時間は72時間以内。
- D その他災害の混乱がある程度収まってから復旧するもの。
AからCまでに該当しない業務に必要なシステム。順次復旧する。

8月20日の行政報告会において、懸案であったICT-BCP（業務継続計画）が施行されたことについて説明を受けた。

平成30年第1回臨時会 消防ポンプの取得・教育長の任命

第1回臨時会が8月27日に開催され、財産の取得2件、工事請負契約1件、教育委員会教育長の人事案件1件を審議し、可決・同意した。

〔消防ポンプ車の取得について〕

消防団の老朽化した消防ポンプ車（第3分団・片岡区、第4分団・北区）2台を更新。

（仕様）

- ・普通消防ポンプ自動車
- ・放水性能毎分2㎡以上

（契約金額）

34,992千円

（契約相手方）

（株）ケイシヨウ車体



イメージ

〔ノンステップバス購入〕

国の補助を受け、バス路線の維持と利用者の利便性向上を図る。

しずてつジャスト

ライン(株)に貸与

（仕様）

- ・定員80人以上

（契約金額）

23,814千円

（契約相手方）

・静岡日野自動車(株)

（株）

問 バスの購入・貸与という特殊なケースであり、限られたメーカーの値下げ競争などの心配はないか。

答 通常の制限付き一般競争入札であり、問題はない。



ノンステップバス

〔公共下水道吉田浄化センター機械設備更新工事〕

自動徐塵機部品などの更新工事

（契約金額）

64,800千円

（契約相手方）

クボタ環境サービス(株)

問 耐用年数による更新であるが、劣化を判断する基準はあるか。

答 長寿命化計画の最終年度であり、設備の老朽度は目視などにより点検している。

〔吉田町教育委員会教育長の任命につき同意を求める〕

- ・氏名 栗林芳樹氏
- ・生年月日 昭和57年10月28日
- ・任期 平成30年9月1日～平成31年3月31日

問 文部科学省で行政を担当してきた人が教育長に就くのは「教育の政治的中立性」から見て問題はないか。

答 政治的中立を犯しているとは思わない。

反対討論

（大石巖議員）

この地域で教育行政に携わってきた経験や経歴、教育に携わる人たちに對し「人格」や「識見」という条件が十分に認識されるような人選が必要ではないか。教育基本法16条に

「教育は不当な支配に服することなく」とあり、政治的な力に左右されないことが必要である。栗林氏は文科省において新しい学習指導要領に携わってきた人であり、教育の中立性、不偏不党の理念に徹することができ

るのか。

賛成討論

（大塚邦子議員）

吉田町総合戦略や少子化対策など取り組むべき課題がある。教育ではTCPトリビンスプランによる新学習指導要領の取り組みもあり、行政事務の停滞を招かないためにも教育委員会事務局長を担当している人が適任である。

エアコン設置、トイレ改修など全国に先駆けてより良い環境整備を行っている人であり賛成する。

（賛成多数で可決）

question

問

吉田中学校の生徒の就学援助率は

answer

答

29年度は全校生の約7%であった



山口一博 議員

第五次吉田町総合計画で、生活困窮者の自立支援の施策や生活改善支援の促進、困窮状態からの早期脱出。子育て支援環境・サービス、児童虐待防止対策をあげていることから、子どもの貧困・虐待について質問をした。

問 国全体では、18歳

未満の相対的貧困が

13.9%で、食事・

学習・進学などの面

で、将来も貧困から

抜け出せない傾向が

ある。

町の考えは。

答 当町の子どもの貧

困率は、基準となる

数値を持たないが、

一つの考えとして就

学援助率は、小中学

校で約5%である。

子どもの貧困は、

町にとっても極めて

重大な問題であり、

必ず解消しなければ

ならないものと、認

識している。

食事については、

フードバンク事業を

実施して、寄付

の食糧は、県内の福

祉事務所や社会福祉

協議会を通じ、食に

困っている家庭に無

償提供している。学

習面は、公設学習塾

や就学支援事業を

行っている。進学に

ついては、修学資金

や就学支援資金があ

り、町独自の高等学

校等奨学金もある。



日本財団ホームページより

問 29年度静岡県児童

相談概要版では、

前年度より虐待相談

件数は203件増加し、

1516件報告が

あった。

心理的虐待49%身

体的・ネグレクト(育

児放棄)各25%であ

り、0歳から12歳ま

での子どもが83%を

占め、実父から30%・

450件、実母から58%・

901件だった。

町の実態や取り組

みは。

答

虐待が疑われる相

談は28年度147件、29

年度203件を受け付け

た。また、虐待の分

類はネグレクトが半

数以上を占めて次に

心理的虐待であった。

取り組んでいる対

策は、親子の孤立を

予防し、不安感や負

担感を軽減するた

め、気軽に相談でき

る窓口を複数設け支

援している。子ども

が乳幼児の時は、健

診や全戸訪問事業で

親子が保健師と関わ

る機会が気を配って

いる。

保健センターに設

置した「よしにこ」

で相談する環境があ

町政を問う

question

問

介護予防に民間の活力導入を

answer

答

居場所やサロンに協力を得たい

高齢社会を迎え、わが町でも高齢者のいる世帯は増加傾向にあり、中でもひとり暮らしの高齢者や高齢者夫婦のみの世帯数が増加している。高齢者の現状把握と参加しやすい様々な介護予防を進めていく必要があると質問した。

問 はつらつ講座の実施状況は。

答 現在は9会場で行っており、29年度の参加者数は1412人、順調に増えている。

問 さらに参加者を増やす取り組みは。

答 参加者が比較的に少ない地区においては、自治会や町内会の協力を得て、周知活動に取り組んでいく。



はつらつ講座

問 介護離職者の把握と対応は。

答 28年度に実施した調査において、要介護認定者の介護を主な理由として「主な介護者が仕事を辞めた」と回答された方

の割合が16.4%となっており、介護離職者は一定数いることが分かっている。町では、在宅で高齢者の介護を行っている家族に対し「家族介護教室」の開催や、「家族介護交流事業」などを実施している。今後も、介護離職ゼロに向けた取り組みを推進していく。

問 在宅医療・介護連携推進事業の進捗は。

答 吉田町包括支援センターにおいて、本年9月13日に、住民の皆さまが利用している通院圏内の各総合病院から在宅への円滑な移行ができるよう、ケアマネージャーと総合病院相談員との意見交換会を実施した。

問 介護予防に民間の活力を導入する考えは。

答 住民が主体となった通所型サービスBや民間事業者による「シニアストレッチ教室」など実施している。



ふつか会



大塚 邦子 議員

「サロン」がボランティアにより行われている。今後、民間団体や地域で活躍するボランティアの皆さまのご協力を得ながら介護予防を図る取り組みを検討していく。

question

問

マスタープラン中間変更の理由は

answer

答

社会情勢の変化に対する見直し

都市計画マスタープランの中間変更が行われた。

北区では、自彊小学校の児童数が、東日本大震災から7年たち111人増え、宅地化が進んでいる。吉田インター周辺および北区地域の全体的土地利用の計画と誘導について質問した。

問 都市計画マスタープランの中間変更の理由は。

答 プラン策定から10年経過した。その間の大きな社会情勢の変化に対応するため。

問 東名川尻幹線など、沿道利用地とはどのような計画か。

答 商業・流通系の土地利用が集積されるように、計画的誘導を図る。

問 土地利用には、農地(青地)の地目変更の問題がある。法的、時間的制約はあるのか。

答 農地の除外を行うには、「土地基盤整備完了後8年以上経過しているものであること」という要件がある。

問 静岡空港へつながる、計画道路としての富士見幹線の計画は。

答 島田市の整備計画を注視しながら対応を検討していく。

問 富士見幹線沿線区域の土地利用は。

答 営農環境、景観などに配慮した良好な住環境を確保する地域として土地利用の誘導を図っていく。

問 インター周辺の土地利用誘導区域はこれから調査を行うと聞いた。主眼は。

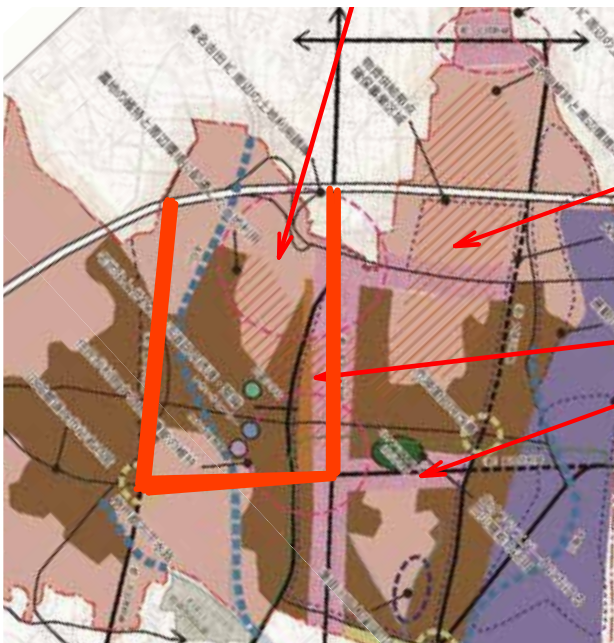
答 周辺の土地利用の可能性を調査するため。

問 都市計画マスタープランの中間変更で、インター周辺は。

答 「インター周辺活用ゾーン」とし、調査結果を基に、計画的な土地利用を誘導するよう検討していく。

問 大井川用水受益地は、29年度から8年は転用が難しい。

答 大井川用水受益地は、29年度から8年は転用が難しい。



吉田インター周辺の都市計画イメージ図



山内 均 議員

町政を問う

question

問

健康でいきいき暮らせる町づくりは

answer

答

生活習慣病の食育改善の推進を行う

健康づくり事業では4事業があり、健康体操やダンス健康づくり、健康体操、食育推進事業が行われている。また28年度から31年度まで「地区健康度アップ事業」が開催されている効果と課題は。

問 当町では県内市町と比較すると、高血

圧症有病者、糖尿病予備軍に該当する方が多い現状である。

答 町は、保健師、栄養士の方が出向き、「地区健康度アップ事業」を開催したが効果は。

答 減塩味噌汁を試飲して、血圧測定を行った。「高血圧の人が多くとは知らなかった。だしの取り方を教えて欲しい」など関心が高まった。健康課題を男性の

参加者にも考えても

らうことができた。「隣組にお知らせしたい」など、地域への啓発につながった。

問 これからの「地区健康度アップ事業」の今後の課題は。

答 参加者が少人数であったことから、今後、広報よしだでのPRや、イベント・運動教室に出かけていき、情報提供や正しい知識の普及を行っていく。

問 減塩が大事だと町民の皆さんに浸透させてほしいが。

答 減塩を含め、健康についての情報などお知らせしていく。

問

食育セミナーで「500キロカロリーまんぷく定食」の講義が行われたが効果は。

答 「材料を量ることの大切さが分かった。野菜は両手で350gなので家で量ってみたい」など、食生活改善の動機付けになった。

問

食育セミナーを行ったが課題は。

答 500キロカロリーの実物を見たいとの声があり、今年度調理実習を4回行う。

問 総合体育館トレーニング機器の活用

の推進は。

答 健診の結果を踏まえて適切なアドバイスをし、推進していく。

問 「笑つしよいよしだフェスティバル」

を屋外でできないか。音響効果や照明効果によることで達成感が得られる。今後もし引き続き屋内で行う。



血圧計



野菜350g



三輪美由紀 議員

総務文教常任委員会調査報告

生活交通の確保について

調査の目的と経緯
 高齢化に伴う自動車運転免許証の返納や免許証を持たない方たちに必要となる移動手段を確保するために、近隣の市町が行っている実例を参考にして調査している。

・委員会報告

委員会では、議会報告会でコミュニケーションバス・乗合型デマンドタクシーなどのアンケートを実施した。

6月21日

アンケートを細分化し、①免許証返納、②タクシー、③コミュニケーションバス、④現行手段の利用、⑤需要、など調査テーマを決定した。

7月9日

調査事項の質問を、企画課と福祉課にすることを決めた。
 内容は①生活交通に対する考えと今後の施

策、②高齢者の免許証返納に対する施策など8項目とした。

7月18日

8項目の質問の回答と説明を、企画課と福祉課から受けた。

また、8月16日に生活交通の先進地である藤枝市役所を視察することを決定した。

8月16日

藤枝市役所を視察。質問に対する回答と説明を受けた。

8月21日

藤枝市役所視察のまとめを行った。

藤枝市役所視察

視察日 平成30年8月16日
 視察目的 先進事例の視察を行うことにより、当町の政策形成に寄与することを目的とする。
 視察内容 生活交通の確保についての状況調査。



藤枝市自主運行バス

質問と回答

自主運行バス、予約型乗合タクシー及びバス停型乗合タクシーについて。

問 当該事業導入に至る経緯は。

答 民間事業者の運行するバス路線が存在したもので、収支の悪化などにより撤退したものを補うために設けた。

質問

現在の運用状況。
 全体の利用者数は減少傾向。一方、デマンドタクシーの利用者は増加している。

問 公共交通施策の概要について。

答 藤枝市と周辺市町を結ぶ広域路線としての役割を担うべく、自主運行バスや地域住民の移動手段の役割を担うデマンドタクシーを設けている。

質問

事業計画における課題はあるか。
答 生徒・児童の通学の足として利用されている路線は単純に廃止や再編成などを見直すことはできない。

質問

運転免許証自主返納者に対する取組は。
答 自主運行バスの無料乗車券を交付している。
 委員長 山内 均

産業建設常任委員会調査報告

道路・河川及び都市公園の管理及び整備について

道路、河川及び都市公園の管理及び整備についての現状と改善策について調査、研究する。

6月8日

「都市公園の管理及び整備について」当局より以下の事項について説明を受けた。

- ・都市公園の法的位置付け
- ・計画決定面積と供用面積(下表参照)
- ・維持管理の状況
- ・未整備公園の整備計画

6月12日

公園の問題点や課題を整理するためのチェックリストを作成した。

6月20日

- 当局から以下4点について説明を受けた。
- ・大井川清流緑地の他市との整備状況の違い
 - ・大幡スポーツ広場の公園としての位置付け
 - ・大井川の護岸整備状況
 - ・大井川清流緑地のトイレについて

6月25日

未開設の5公園を除く12公園の現地調査を行った。

8月28日

現地調査の結果、管理状況について3ランクに分類した。

「管理ができていない」

- ・青柳公園
- ・吉田公園
- ・防災公園

「おおむね管理できている」

- ・大道公園
- ・小藤路公園

「管理不十分」

- ・川尻大道公園
 - ・西の宮公園
 - ・能満寺山公園
 - ・大井川清流緑地
 - ・川尻児童公園
 - ・吉田海岸緑道
 - ・湯日川親水公園
- 委員長 大石 巖

都市公園一覧表

公園名	位置	種別	計画決定		最終開設	
			年月日	面積(ha)	年月日	面積(ha)
① 青柳公園	神戸 街区	街区	S47.8.17	0.55	H10.3.23	0.72
② 稲荷山公園	片岡 街区	街区	S47.8.17	0.53	未開設	
③ 大道公園	住吉 街区	街区	S50.3.1	0.26	S53.2.28	0.26
④ 川尻大道公園	川尻 街区	街区	S55.4.5	0.28	H7.5.26	0.28
⑤ 浜田公園	川尻 街区	街区	S55.4.5	0.26	未開設	
⑥ 日の出公園	川尻 街区	街区	H4.3.31	0.22	未開設	
⑦ しらさぎ公園	片岡 街区	街区	H4.3.31	0.23	未開設	
⑧ 小藤路公園	住吉 近隣	近隣	S61.9.30	2.4	H19.8.1	2.1
⑨ 西の宮公園	川尻 近隣	近隣	S61.9.30	1.5	H15.3.24	1.5
⑩ 住吉西の坪公園	住吉 地区	地区	H2.9.28	4.5	未開設	
⑪ 吉田公園	川尻 総合	総合	S51.4.6	31.5	H13.8.1	14.3
⑫ 能満寺山公園	片岡 特殊	特殊	S56.4.3	5.9	H7.3.13	2
⑬ 大井川清流緑地	大幡・川尻	都市緑地	S61.9.30	148.7	H17.6.1	17
⑭ 川尻児童公園	川尻 街区	街区	—	—	S58.7.1	0.23
⑮ 吉田海岸緑道	住吉 緑道	緑道	—	—	H7.9.8	1.23
⑯ 湯日川親水公園	住吉 都市緑地	都市緑地	—	—	H15.3.24	3.68
⑰ 防災公園	神戸 近隣	近隣	—	—	H28.10.4	1.44



使用できない浮棧橋 (湯日川親水公園)



撤去前の休憩所 (西の宮公園)



整備されている青柳公園

吉田町教育改革調査特別委員会

委員会 報告

6月18日

第10回特別委員会を
開催。

I協議事項

委員会の運営につい
て

- ・授業の平準化につい
て、他の市町の方針
を検証

- ・教員の多忙化の原因
と解消策

- ・「今後の方向性後の
問題点について調査
研究する
- を、基に今後の委員会
の進め方について協議
した。

*協議の結果

- ・これまで出された資
料を検証する
- ・現状の教育現場を把
握する

- ・ラーニングプランの
実績とTCPトリン
スプランとのつな
がりを調査

- ・総合教育会議と教育

を見直す必要がある。
③多忙化について具体
的に調査が必要。

委員会と各学校との
意思疎通について調
査
以上の4項目を柱に
委員会を進める。

IIその他

第16回議会報告会での
質問に対する回答につい
て協議し決定した。

8月7日

第11回特別委員会を
開催。

協議事項

1 TCPトリン
スプランの今後の方向
性について（平成29
年10月23日付け教育
委員会資料）の「教
育委員会としての方
向性」について協議
した。

意見
①教職員との車座対話
の内容が非公開でわ
からない。
②教員の多忙化の原因

②教員の多忙化の原因



議会 ICT推進特別委員会

委員会 報告

6月29日

1 議会フェイスブッ
クに掲載する、7月
の行事予定と掲載担
当者を決定した。

2 ICTを活用した
議会活動について協
議した。

- ・議会へのサイボウズ
ライブ導入につい
て、議会ICT推進
特別委員会と協議
し、必要であると結
論付けた。
- ・全員での協議導入に
向けた資料を作成し
た。

2 今後の進め方
①車座対話の実施状況
と意見の報告を求め
る。
②多忙化解消の具体策
として、住吉小学校
の「夢プロジェクト」
の実施状況を聞く。
委員長 八木 栄

①タイトル
ICTを活用した議
会活動および委員会
運営。
② 手段

② 手段

めた。

実習への準備

無料のサイボウズラ
イブの導入。
③ 目的
議員相互の意見、情
報交換。

④ 期待できる効果
・インターネット上で
資料確認ができるた
め、資料確認が迅速
にでき、資料内容の
改善を事前に行うこ
とができる。

・議員相互の意見交換
や認識を深めてか
ら、会議に臨むこと
ができる。

7月27日
1 議会フェイスブッ
クに掲載する8月の
行事予定と掲載担当
者を決定した。

2 サイボウズライブ
導入の全員参加につ
いて協議し、議員研
修会を行うことを決
めた。

1 議会フェイスブッ
クに掲載する9月の
行事予定と掲載担当
者を決定した。

8月20日

- ・議員研修会。
- ・研修内容
携帯電話、スマート
フォン、タブレット
を活用して、サイボ
ウズライブの実習を
行う。

8月27日

1 議会フェイスブッ
クに掲載する9月の
行事予定と掲載担当
者を決定した。

委員長 杉本幸正



町のボランティア団体紹介

子どもを育む片岡きらめき塾

～自治会、コミュニティカレッジ、ボランティア45人の協力のもと活動している。～



近藤順次会長

ボランティアに参加したきっかけは60歳の定年後です。会長になって6年、子どもの笑顔を見るのが楽しみで10年以上たった今も続いています。

「地域の子どもは地域で育む」を合言葉に、ボランティアの方と子どもたちが触れ合えるイベントを年間6回実施しています。その中の一つである味噌作り教室では、大豆を蒸すことから始めて手作りで行われ、お土産に3キロの味噌を持ち

ち帰ることができます。

また、片岡きらめき塾の手作り味噌は他地区での合同イベントで活躍しています。4月に行われるファミリーウォークでは手作り味噌で豚汁を作っています。

ボランティアをしていて良かったと思うことは、イベントに参加した子どもたちが町であった時に声を掛けてくれることです。

将来は、きらめき塾を体験した子どもたちに、手伝ってもらうことができれば一番嬉しいことですが、若い人に入っているだけで一緒に活動してもらえれば嬉しいと思っています。

会長 近藤順次



楽しかった泥んこ遊び
旗に向かってゴーゴー

活動計画	
6月2日	泥んこ遊び& ジャガイモ収穫
8月4日	花火&肝試し
9月8・9日	片岡きらめき合宿
11月23日	味噌作り教室
12月22日	ミニ門松づくり
2月2日	Let'sクッキング



災害時の袋を使ってカレー作り
美味しいカレーになーれ



防災合宿水消火器訓練
上手に消すことができるかな

議会フェイスブックページから、議会情報の発信中。

こちらからどうぞ

<https://www.facebook.com/yoshidachougikaiict>

動画や写真のスライドショーなど、議会活動の様子をご覧ください、ご意見をお寄せください。



(QRコード)

第17回吉田町議会報告会出席のお礼

第17回議会報告会には多くの方々のご参加をいただき、誠にありがとうございました。
議会報告会でいただいたご意見やご要望は報告書をもって回答させていただく所存であります。
次回のご出席をお待ちしております。



まちの話題



住吉区民運動会



片岡 初めて実ったシャインマスカット



北区 大井神社 浦安の舞



川尻 防潮堤整備着工式

あとがき

秋の田は黄金色から葉物野菜のグリーンに変わっています。

町内の行事も、秋祭り、運動会、文化祭と多彩な季節です。

催しを通じて交流を深め、人の輪も広がります。

町議会も、毎回の議会報告会を通じて町民の皆さんとの交流を図り、ご意見・ご要望を議会活動に反映しています。

2人以上の要請があれば、どこでも「出前会議」を行います。
気軽に最寄りの議員や議会事務局に声を掛けてください。

(一・〇)

議会広報特別委員会

委員長 三輪美由紀

副委員長 山口一博

委員 蔭田昌代

大石 巖

三輪 正邦

河原崎昇司